

ワーキンググループでの活動報告と 未来ビジョンの策定に向けて

令和5年10月30日

第2回 加茂駅周辺まちなかエリアプラットフォーム準備協議会

① この取組に至る背景（振り返り）

● もともと「歩きたくなる」都市構造

- ① JR加茂駅から伸びる約1.4kmの商店街
(長生きストリート)
- ② 上記中心市街地に隣接した癒しの空間
 - 加茂山(青海神社・公園)
 - 加茂川(河川敷緑地)
- ③ ①×②により、元来加茂の中心市街地は車がなくても楽しめるコンパクトシティ



<今後解決を図るべき課題>

- コロナ禍を契機とした中心市街地の店舗数減少
- 上記資産の有効活用による回遊性・滞在性向上
 - 他方、宿泊施設や若者の居場所等、行政だけでは取組困難な分野も存在

- 中心市街地でのイベント時には大きな賑わい
 - 市内各所から老若男女問わず参加する市民性
 - ① 行政主体：雪椿まつりetc.
 - ② 会議所主体：加茂川夏まつりetc.
 - ③ 商店街主体：大通り春まつり、秋まつりetc.
 - ④ 神社主体：春季祭礼、秋季祭礼etc.
 - ⑤ 民間団体主体：加茂川を泳ぐ鯉のぼりetc.



<今後解決を図るべき課題>

- 各種イベントのあり方について
 - 負担金・協賛金の減少や担い手不足
 - 手段(イベント開催)の目的化の是正
 - 新たな担い手の掘り起こし
 - 活動に広がりを生み出す共感と連携の源



● 自助・共助の広がり（公助からの巣立ち）

➤ 市内で多様な組織・団体の自主的な活動が活性化

例) かも健康長寿県内No.1プロジェクトとの連携による「ウォーキング」を通じた健康増進活動

新潟大や新潟経営大、加茂市内の高校の学生・教員による地域連携活動やまちづくり演習を通じた課題解決に向けた各種活動



<今後解決を図るべき課題>

- 組織・団体の垣根を越えた連携体制の構築
- 活動の継続性・持続可能性の確保

加茂市の資産を見つめ直した結果から、

- ウォーカブルなまちづくり
- 市民が主体のまちづくり
- 多様なステークホルダーによる共創のまちづくり

を施策の軸となるテーマに設定

上記キーワードに沿ったまちづくりを進めるため、

⇒ ウォーカブル推進都市に加盟(R4.6)

⇒ 国土交通省の官民連携まちなか再生推進事業を活用

- エリアプラットフォームの構築
- 未来ビジョンの策定

に向けて、R5年度から本格的に取り組みを開始

官民連携まちなか再生推進事業とは？

官民連携まちなか再生推進事業

令和4年度当初予算 3.4億円
令和4年度補正予算 2.0億円

官民の様々な人材が集積する**エリアプラットフォームの構築**やエリアの将来像を明確にした**未来ビジョンの策定**、ビジョンを実現するための**自立・自走型システムの構築**に向けた取組を総合的に支援し、多様な人材の集積や投資を惹きつける都市の魅力・国際競争力の強化を図る。

未来ビジョン策定とビジョン実現のための自立・自走型システムの構築への支援



市民や地元事業者が主体となったまちづくりが定常的なものになっていくためには、そのための仕組みづくりが不可欠

- ① 内外のステークホルダーが集い、まちづくりのための事業提案、仲間づくりができる場

➡ 「エリアプラットフォーム」

- ② そうした多様なステークホルダーが共感できるまちづくりの指針・目標

➡ 「未来ビジョン」

上記目的の実現に向けてこれらを構築していくのが、本準備協議会とワーキンググループ（以下、WG）の活動です。

② WGでの活動・検討内容の報告

はじめに -WGでの検討プロセス-

【第1回WG】

まちなかエリアの未来について、多様な視点からこれからも大切にしていきたいと思う空間、取組、雰囲気などについて意見交換

意見を適切
に反映

将来のまちの姿
(未来ビジョン)

【第2回WG】

課題に対処し、将来像の実現に向けて中心に据えるべき考え方・方向性の判断基準などを議論

エリアの
課題

【エリアの現状】

昨年度の検討内容にWGの意見を加えて再整理

前回協議会以降のWG活動概要

セミナー
(R5. 8. 8)



【講演】（28～31ページ）

- **講師**：萩野委員
- **内容**：エリプラ検討の背景（まちづくりのトレンド等）
エリプラによって目指すアウトカムや出口 など

【意見交換：ワークショップ形式】

- **議題**：まちなかエリアの「ありたい姿や暮らし」のイメージ
▶参加者が事前に用意した写真・イラストを用いながら、「ありたい姿や暮らし」の想いを発表・意見交換

第1回WG
(R5. 8. 29)



【意見交換：ワークショップ形式】（12～16ページ）

- **議題①**：まちなかエリアの未来について
▶3班に分かれ「若者」「子育て世代」「シニア世代」の視点にたって、ありたいまち・暮らしの意見を意見交換
- **議題②**：まちなかエリアの活性化に必要な取組について
▶セミナーの講義内容や議題①を踏まえて意見交換

第2回WG
(R5. 10. 2)



【討議：会議形式】（17～18ページ）

- 第1回WGの意見交換結果の振り返り
- まちなかエリアの課題、将来像、取組の方向性について意見交換
▶今後の取組の優先順位の基本となるような考え方を中心に議論

第1回WGの意見整理(1)

若者世代の目線で、ありたいまち・暮らしについて意見交換を実施



若者が利用しやすい交流の場・居場所のある暮らし

リーズナブル利用できる場	お金がなくても楽しめる	学生でも入りやすい店	大学生が入りやすいバー
学生向けの飲食	ガスト、マックで放課後	お茶する、集まる場がある	授業終わってから飲みに行ける
学生ターゲットのお店	マックがいこの場	飲みに行く場がある	大学生同士が学校の近くで飲める店
チェーン店がない。酒を飲むところ	安く飲める場所	三条や新潟で飲む人も	コスパの良いお店
プリクラ、カラオケ	学生が電車をまてるタダの場所	新潟と三条は半分 若干、三条方面が多い	

座れる場所がたくさんある	専門書がある図書館(広域利用)	長時間居座れる居心地の良い図書館	大きい公園がある(人と目が合わない)
フリースペース、フリーwifi、がある	メリア3階	風景に紛れられる(心理的安全性のある屋外空間)	ダンスグループ等が練習で使ったりできる
河川敷	加茂川の河川敷を活用	地域にどっぷりつかれる場所	座れる場所 wi-fi

外から人を呼べる場所、お店	加茂高生をターゲットにした商店が近くにない	遊ぶ場所、飲む場所、目的になる場がある	古着屋
---------------	-----------------------	---------------------	-----

楽しめる場所

活躍の場や機会のあるまち

学生活動のアンテナショップ 例)農林	加茂市内の農林業の産直のお店	学生の活動が認知、応援されている
まちとして学生の活動を応援する	自己実現できる環境がある	やっていることが評価される

就業の場

売上げをあげられる	学びが卒業後生かせる(農林→農業)	バイト先
-----------	-------------------	------

交通・移動

電車利用者はスポーツ、運動部が多い	駐輪場を利用	大学のバスを利用	乗降で4000人/日くらい
加茂高校西口を使う	駅利用者 定期9割弱、7割くらい通学	歩いて大学へ行く(まちなかを通らない)	意外と公共交通を使っていない

住環境

大学周辺に住む人もいる	まずは住んでいる人にとって心地がよい
-------------	--------------------

外の人が回遊できる歩かせるルートと店

第1回WGの意見整理(2)

子育て世代の目線で、ありたいまち・暮らしについて意見交換を実施



子どもと過ごせる、家族で楽しくおでかけできる暮らし

自然に囲まれた広場で子どもと伸び伸びと遊ばせるスペースが欲しい	公園がある(キレイなトイレがある)	子供:あそべる、親:昼寝、子供・親:ネット環境、食べる	休日親子で過ごせる場所(公園)
ショッピングモール(家族で買い物を楽しめる)	レストラン	親と子供共有の居場所→また連れていこうとなる	子どもと一緒にまちなかで楽しむ(思い出をつくる)ことができる
スポーツ観戦できる場所	図書館	スポーツ施設	スペースの中でゆっくりできる場所(カフェ、食事できる所)
加茂川を見ながら食事を楽しめる空間	散歩コース		

子育て世帯に優しいまち

バリアフリー、ベビーカー対応	学童保育	子育てで困った時に助けてくれる場所や活動がある
熱を出した子どもを預かってもらえる	働いている時に安心して子どもをあずける場所がある	医療施設
子ども預かって買い物できるとよい	子育てする親どうしが交流することができる場所がある	子どもがさわいでもおこられないような雰囲気や場所がある

家族のお出かけで使いやすい駐車場

加茂山公園、メリアはとめやすい。多目的広場の駐車場も少し使いやすく	パークアンドライド・GOできる駐車場(メリアも)	付近に駐車場あり	広い駐車場(ゆとりをもってとめられる)
-----------------------------------	--------------------------	----------	---------------------

子どもが楽しめるまち

雨や雪でも安心して子ども達が遊べる場所	体を動かせる場所がある	駄菓子屋	遊具がもう少しあると良い(加茂山公園)
---------------------	-------------	------	---------------------

暮らしやすさ

生活に関連する情報を得やすい	ライフイベントの情報が欲しい	安価に生活用品をそろえることができる
----------------	----------------	--------------------

子ども教育

塾

教育、習い事の拠点、会議セミナー、イベントスペース 例)塾、ピアノ、水泳、体操

安全安心

治安がいい

夜も安心してきれいなまち

便利(来訪者にも)

拠点としてハブとして高速鉄道、高速バス、ビジネスホテル	交通の便がいい	コンパクト、スマート、ハイテクシティ 例)無人EV、JR and 道の駅
-----------------------------	---------	--------------------------------------

第1回WGの意見整理(3)

シニア世代の目線で、ありたいまち・暮らしについて意見交換を実施



コミュニケーション・交流のある暮らし

昔話に花を咲かせやすい

近所の友達がふらっと寄ってくれる

高齢者になっても働ける場所(コミュニティ)

コミュニティを作りやすい空間

早朝カフェ、ウォーキングの途中で立ち話など

デジタルネイティブなシニア層が集う場所

サークル活動で街のガイド

人が集まる憩いの場所(公園、ゲートボール、運動)

高齢者へコミュニティへの参加する事の重要性をセミナーで説明(孤独の大変さを説明)

- ・商店街(駅～新町)の各所休憩スポット
- ・ウォーキングのコースとして活用
- ・カフェなど人と話ができる場所
- ・65～69歳の健康な人がターゲット

健康で安心できる暮らし

明るいが陽が当たらない(熱中症防止)

皆で見守りができたほうがいい

福祉施設が充実、医療施設が充実

健康で過ごせる環境

介護について将来的な安心感がある

市役所と高齢者向け病院、マンションの合築

高齢者向けのシェアハウス、見守りサービス

アクティブで安全に活動(運動)できる場所がある

のんびりと佇める場所がある

健康年齢を維持するために、健康でいることへの評価をしてあげる(買い物ポイントのプレゼント)

家族のつながりのある暮らし

孫と遊びやすい、孫が遊びに来てくれるところ

子供、孫が遊べる場所があるといい

息子夫婦、孫と定期的に会い、山、川、商店街で休日過ごす

2世帯居住(都会からの移住含む)への厚い補助、もしくは同居手当

移動や日常生活がに困らない暮らし

子供に免許を返納しと言われない環境

自転車道路が整備されている

デイケアの車から降りやすい

公共交通が充実

まちなかエリアで生活ができる(買い物、移動)

自分の時間がある暮らし

孫を任せられすぎない

趣味に熱中できる日常

観光客の受け入れ

市内在住者と市外来客者のゾーニング

商店街に宿泊施設

安らぐ場所のある暮らし

川沿いのテラス席

まち中で佇める場所

商業などの後継者

- ・ポジティブなM&A(事業承継)
- ・起業支援

個性や魅力づくり

ブランディングの戦略づくり

北越の小京都の実現

エリアの魅力の再発見・発信

新しい名産品、特産品、商品の研究・調査

歴史資源の活用

地元でなじみのある建物(旧加茂銀行等)の整備やそこでの活性化

谷通りの一部の景観を整備して歴史的スポットにする

未利用スペースの活用

空き家、空き地の活用あっせん

空き店舗の活用あっせん

賑わい創出・イベント

定期的なイベント開催・周知

(歩行者天国、信濃川沿いの果樹農家、七谷地区の米、野菜農家とのコラボイベント、加茂川に人が集まる、遊ぶイベント、花火、鯉のぼり、キッチンカー、マルシェ、まちあるき)

公共空間を活用した滞留

来た人が加茂でおみやげを買って帰る商店街になるといい

観光施設のPR

観光客の回遊整備

観光ガイド

加茂山や加茂川への誘導

町屋を活用した宿泊施設

住む人にとってよいイベントとなるように地元と調整

オーバーツーリズムに対する戦略や調整

まちなか情報の発信

創業・就業支援

コワーキング、シェアオフィス運営

創業支援、テナント誘致

シルバー人材とタウンワークな仕事を兼ね備えた役割「ワークシェア」

チャレンジショップ紹介

職業体験、インターン

広告・案内

仕組みをつくったうえで、広告需要はあるかもしれない

案内看板の設置管理

魅力的な看板設置

まちなかの情報を提供・発信するアプリの開発・普及

若者向け

学生専用フリースペースの運営(メリア3Fの有効活用)

経営大の学生向けのシェアハウスの経営

駐車場運営

まちなかエリアの駐車場の誘導役・案内

駐車場 リアルタイム空き状況の提供

モビリティサービス

電動レンタサイクル

カーシェアの運営

乗り合いバス(スローモビリティ)の運営

まちの美観の向上

まちの清掃、植物の管理

まちなかを雪椿で彩る

加茂山、加茂川の清掃活動

電線等の地中化促進

人流データ活用

関係人口の動向のデータ化

AIカメラによる人流観測

人流データを用いた施設配置の検討、データの共有

地域の安全・安心

高齢者の外出支援

困り事などに対する相談サービス

防災・防犯、子ども、高齢者、見守りなど「パトロール」

加茂山公園の魅力化

子ども達の遊び場のインストラクターの配置

動物のとのふれあいの場

子育て世代が利用したくなる環境整備

まちづくりの担い手の育成・組織化支援

専門家とプレーヤーのマッチング

ボランティアのものを組織化

NPOグループの情報共有化

域内事業者のコミュニティづくり

コミュニティビジネス

商店・スーパー・コンビニなどのECが活用しきれない店の「宅配サービス」

健康・子育てスポーツなどの「スポーツクラブ運営」

● まち（商店街）に関すること

商店街の人の目線でのイメージ

- 商店街の人にとっては暮らしがメイン。
- 暮らし：観光割合＝7:3～8:2のイメージ。
- 昔は本当に便利なまちで、今でも、値段を気にしなければ大体のものが揃うのではないか。
- 市民は商店街に対し、観光のイメージは抱いていない印象。
- 空き店舗でも住居として利用されている建物が多い。
- 加茂の人が「観光客はそんなに多くなくていい」というのを耳にしたことがある

西加茂など加茂市民の目線でのイメージ

- 西加茂住民の視点の商店街は、暮らしというよりは交通の要衝、飲みや遊びに来る場所のイメージ。
- 「暮らし色」か「観光色」かのどちらかではなく、駅周辺と駅から離れたところでは違うのではないか(グラデーションのような色分けではないか)。
- 加茂ナイトバザールの際、21台もキッチンカーが来たのにも関わらず長蛇の列で、売切れも出ており、潜在需要の現れではないか。

商店街が直面している問題点・課題

- 日常生活における需要に対し、商店街や駅前エリアにおける供給が不足していると思う
- 例えば、お惣菜やトイレトペーパーなどの日用品を買えるところが少ない。
- 人口が減って近所のお客さんが少なくなったこと、店主が高齢になったことの両方が背景にある。
- 商店街の人も、商店街以外の店舗(郊外のチェーン店等)で買い物
- 高齢者の方を除けば、買い物客は少ない。
- イベント客が商店街の客になっていない。
- 飲食店と日用品を販売している店舗では、イベントの効果が異なる。
- 加茂市商店街では、空き店舗が増加し、10年後にはさらに増加すると想定される。
- その中で商店街を「暮らし」の支えとする必要が本当にあるのか、投資する必要があるのか(商店街を残す必要性があるのか)
- 家族に借金を残さずお店を畳むという「最高の終焉」を迎えたいというお考えの方もいる。
- これから頑張りたいという方々だけを集めて特区のようなものを作り、そこだけでお店を残すという考え方も可能ではないか。
- 創業件数が減ってきており、外から人を呼び込むことが課題
- 空き家対策や事業継承、創業の支援が課題
- 商店街の中に色々な機能があることが必要

商店街の可能性(ポテンシャル)

- 夕方でも送迎等による車の混雑がなく、子どもと一緒に安心して歩くことができ、穏やかで時間がゆったり流れていると感じる。
- 加茂での暮らしを整えることで、住んでいる人が笑顔で楽しく暮らしているのを外の人が見に来るといことはありうる。
- 日常をしっかり整えてあげることが、地域の魅力となる。
- 日用品の買い物など生活利便性や季節のイベントごとも含めて、地元の人々の生活をよりよいものとし、その結果として、住んでいる人の日常を魅力資源として、観光につなげるという考え方もある。

● みず（加茂川）に関すること

- 上河川空間がハレの日にしか使われないのはもったいなく、日常の賑わい創出にも使えると良い。
- 加茂川は、天気の良い日は加茂川に、飼い犬と一緒に出かけしてみたくなるような場所
- まちなかエリア(加茂川・加茂山含む)は、家族連れが週末にちょっと出かけるような観光のイメージ。
- 加茂山や加茂川などの公共空間をどのように有効活用するのは重要
- 加茂川から加茂山公園へ人の流れをどのようにつなげていくかが重要

● みどり（加茂山）に関すること

● まちなかエリア全体やまちなかエリア外との関わりに関すること

- 西加茂からまちなかエリアに人が流れるだけでもだいぶ違う。
- 昔から、南北のつながりを意識して橋を架けてきたことから、加茂川を挟んだ南北方向は分断されていない
- 自転車や徒歩移動の場合、西加茂とまちなかエリアをつなぐ動線がなく、現状では、子どもや女性が夜に歩くには怖い。
- 高校生は、駅から橋を渡って移動しており、南北川が境界になっていないのはよいと思う

③ 未来ビジョンの策定に向けて

このエリアのまちづくりに関わる人が皆で共有したいと考える将来像

(参考)未来ビジョンの構成案

01 はじめに



策定の背景、趣旨、策定の体制・経過など

02 エリアの特性と課題



エリア内の強み・弱み・機会・脅威など

03 エリアの目指す姿



ビジュアルで示すエリアの将来像など

04 具体的な取組



将来像を実現するための方針や施策など

05 推進・運営体制



エリアプラットフォームの体制・役割など

エリアの現状

強み

- コンパクトで歩きやすい環境
(全天候型ウォークアブル空間の商店街、商店街～加茂山～加茂川)
- ゆったりとした、ホッとできる都市環境(=居心地の良さ)
- 人口比に対する駅利用者数が多い(特に学生等若者の定期利用)
- 魅力の向上に活用できそうな歴史的・文化的建物が点在
(青海神社ほか神社仏閣、谷通り:懐かしい雰囲気のある街並み、土蔵等)
- 商店街は個性的な街区・店舗があり、スーパーや医療施設などの日常生活を支える都市機能が集積
- 癒しのオープンスペースである加茂川、加茂山 など

弱み

- ヒトの滞留や回遊が生まれにくく、賑わい創出や消費活動に結びついていない。
(例:駅利用者が商店街を利用しない、まちなかの情報が十分に発信されておらず、**若い世代に対して加茂の良さが知られていない、若者の居場所不足**、線路を境にまちの東西で人流が生まれにくい等)
- 観光客のピーク時に、それを活かす環境ができていない。
(例:宿泊施設や駐車場、**加茂の名物を購入できる店舗**が不足又は認識されにくい等)
- 商店街の利用者に配慮したサインや空間デザインへの工夫
- バリアフリー化されてない駅舎
- 加茂山に対する市民の普段使いの空間という認識の弱まり
- 子ども連れで過ごせる／過ごしやすい場所が少ない など

社会情勢の変化や新たなニーズ

機会

- コロナ禍での社会変容
(例:屋外利用価値向上、リモートワーク・DX推進等)
- 移住、二拠点居住トレンド
- 地方創生ブーム
- インバウンド、国内観光需要の復活
- 地域の日常を楽しむ暮らし観光への注目
- 高齢化や健康志向の上昇を背景とした、歩いて暮らせるまちづくり など

脅威

- 高齢化(特に単身高齢世帯(孤立)の増加)
- 人口及び世帯数の減少
- 若い世代の大幅な転出超過の継続
→ 店舗廃業リスク
(例:空き家や空き店舗、空き地の増加による**既存ストックの遊休化**)
- 施設の老朽化・陳腐化
(例:利用者のニーズに機能面で対応できない等)
- 小売業の販売方法変化
(例:**高齢店主ではECやDXへの対応が難しい**等)
- オーバーツーリズムへの懸念 など

まちなかエリアの課題（まとめ）

まち (商店街)

- ・加茂駅を利用する若者（高校生等）は多いものの、まちなかの通行やまちなかに滞在することが少ない
- ・商店街を軸とした利用者動線は直線的になりやすく、滞留や回遊を生むような空間としての奥行きが少ない
- ・空き店舗や空き地の増加に加え、店舗から住宅への転換により商業空間としての機能や魅力が弱まる
- ・イベントを通じて得られた集客から日常的な利用者数や売上げの増加などへと結び付く機会が少ない

暮らし

- ・エリア内における人口減少と少子高齢化が同時に進行している
- ・日常生活に密着した店舗などが郊外に増えたことで、エリア内の暮らしを支える機能が相対的に弱まっている

交通

- ・JRの線路により新旧の市街地が構造的に分かれていることから、まちの東西を行き交う人流が生まれにくい
- ・バリアフリー化も含め、JRの線路を挟んだまちの東西を行き交うための、歩きたくなる環境づくりが必要
- ・イベント等のピーク時は特定の場所に人流の集中や駐車場不足が発生し、渋滞や利用回避を招く原因となる

みず みどり

- ・加茂川や加茂山はイベントなどで賑わいを見せるが、普段使いの場所としても利用者を増やせる余地がある
- ・加茂川から商店街、商店街から加茂山への人流を生み出す動線や仕掛けは意図があって初めて利用者に伝わる

歴史 文化

- ・谷通りをはじめ多くの神社仏閣や土蔵、町屋や旧庄屋の建物が残っているが、「どう活かすか」がカギ
- ・人の手が入らず使われない歴史的・文化的資源は、次第に老朽化し次代に継承できなくなる恐れがある

検討プロセスにこれまでの議論を反映

【第1回WG】

まちなかエリアの未来について、多様な視点からこれからも大切にしていきたいと思う空間、取組、雰囲気などについて意見交換

まちでの暮らし・日常の豊かさの向上
⇒笑顔あふれるまち、訪れたいくなる価値

意見を適切
に反映

将来のまちの姿
(未来ビジョン)

【第2回WG】

課題に対処し、将来像の実現に向けて中心に据えるべき考え方・方向性の判断基準などを議論

【今後の検討】
実現に向けた取組

【エリアの現状】

昨年度の検討内容にWGの意見を加えて再整理

エリアの
課題

エリアの
骨格

まち
(商店街)

みず
(加茂川)

みどり
(加茂山)

エリアの目指す姿と方向性（案）

WGの議論

- 商店街は、多くの店主にとっては職住一体の暮らしの場であるとともに、周辺から訪れる人にとっては身近な観光や娯楽の場。加茂市の象徴的な空間。
- 人口減少や後継者不足を背景に、商店街の日常を支える機能の低下に伴い、住む人、訪れる人の密度が少なくなり、それが賑わいや魅力の低下へと連鎖する。
- 鯉のぼりやナイトバザールなどのイベント時に発生する賑わいや消費から、日常的な交流や商いへの還流が生まれると、大きくエリアの価値が高まる。
- 加茂川や加茂山といった憩いの場が近接していて、ゆったり時間が流れている歩行者にとって心地の良いのまちなかは、ここだからこそその価値。

ここでの暮らしの価値の向上は、身近な楽しみ・娯楽の場の形成につながっていることから、まちの魅力の維持や創出に必要な不可欠なもの

【キーワード】 まちなかでの暮らしが心地が良く幸せな日常だと思えるまち

- このエリアに住む人、働く人が住み続けたい、働き続けたいと思える環境があることで、より多くの市民がこのエリアに魅力を見出し、新たな賑わいや交流、消費が生まれ、まちの価値を高めていくことにつながる

方向性

まち(商店街)

・まちなかの主骨格として高密度

・令和に暮らせる商店街づくり

みず(加茂川)

・水辺の滞在環境の向上

・舞台としてのにぎわい活用の促進

みどり(加茂山)

・まとまりを生かした憩い空間としての質の向上

つながり

・まち、みず、みどりの一体感の創出

・ひと、もの、ことの好循環づくり

このまちの大きな資産である

- まち(商店街)
 - みず(加茂川)
 - みどり(加茂山)の
 - つながり(活用・連携)
- によって、加茂という地域の価値が高まる仕組み、仕掛けづくりを引き続き検討していく

方向性に基づくエリアの将来イメージ

- まちなかの主骨格として高密度化
- 令和に暮らせる商店街づくり

- ひと・もの・ことの好循環づくり

- まち、みず、みどりの一体感の創出

- 水辺の滞在環境の向上
- 舞台としてのにぎわい活用の促進

- まとまりを生かした憩い空間としての質の向上



④ 今後のスケジュールなど

R5年度下期スケジュール（予定）

11月

12月

R6.1月

2月

3月

未来ビジョン骨子
(原案)の検討

未来ビジョン骨子
(素案)の検討

APの方針、体制、
構成員、財源等議論

未来ビジョン骨子
(素案)&AP設立案

AP設立前
最終確認

未来ビジョン骨子
(案)&AP設立案の承認

第3回WG

【議事内容】

- ・ 前回議論の振り返り
- ・ 到達点確認
- ・ 未来ビジョン骨子(原案)について

【11/20(月)】

第4回WG

【議事内容】

- ・ 前回議論の振り返り
- ・ 到達点確認
- ・ 未来ビジョン骨子(素案)について
- ・ 持続可能なエリアプラットフォームの体制等について

【12/18(月)】

第3回準備協議会

【議事内容】

- ・ 検討経過報告
- ・ 到達点確認
- ・ 未来ビジョン骨子(素案)について
- ・ エリアプラットフォーム(設立案)について

【1/16(火)】

第5回WG

【議事内容】

- ・ 前回議論の振り返り
- ・ 到達点確認
- ・ 未来ビジョン骨子(案)最終確認について
- ・ エリアプラットフォーム(案)最終確認について

【2/20(火)】

第4回準備協議会 & AP設立総会

【議事内容】

- ・ 検討経過報告
- ・ エリアプラットフォーム(案)について
- ・ 未来ビジョン骨子(案)について

【3/13(水)】

R6 APによる未来ビジョン策定

【官民連携まちづくりとプラットフォームにおける大切なこと】

エリアプラットフォーム

行政をはじめ、まちづくりの担い手であるまちづくり会社・団体、まちづくりや地域課題解決に関心がある企業、自治会・町内会、商店街・商工会議所、住民・地権者・就業者などが集まって、まちの将来像を議論・描き、その実現に向けた取組（＝まちづくり）について協議・調整を行うための場

【出典「まちづくりの可能性を拓げるエリアプラットフォーム」（国土交通省都市局まちづくり推進課）】

【官民連携まちづくりとプラットフォームにおける大切なこと】

エリアプラットフォーム

行政をはじめ、
地域課題解決に
地権者・就業者
取組 (=まちづくり)

駅などで、乗客が乗り降りする一段高くなった場所。歩廊。ホーム。
ビジネス用語としては、物やサービスを利用する人と、提供者をつなぐ場
のことである。

【出典「まちづくりの可能性を拓げるエリアプラットフォーム」(国土交通省都市局まちづくり推進課)】

参考) エリアプラットフォームとは

【官民連携まちづくりとプラットフォームにおける大切なこと】

2. 今後のまちづくりの方向性と「10の構成要素」

- 今後のまちづくりにおいては、コンパクト・プラス・ネットワーク等の都市再生の取組をさらに進化させ、官民のパブリック空間をウォークラブルな人中心の空間へ転換し、民間投資と共鳴しながら「居心地が良く歩きたくなるまちなか」を形成する必要。
- これにより、多様な人々の出会い・交流を通じたイノベーションの創出や人間中心の豊かな生活を実現し、まちの魅力・磁力・国際競争力の向上が内外の多様な人材、関係人口を更に惹きつける好循環が確立された都市の構築を図るべき。

※地域特性に応じた取組を、歩ける範囲のエリアで集中的あるいは段階的に推進
 ※人口規模の大小等を問わず、その特性に応じた手法で実施可能

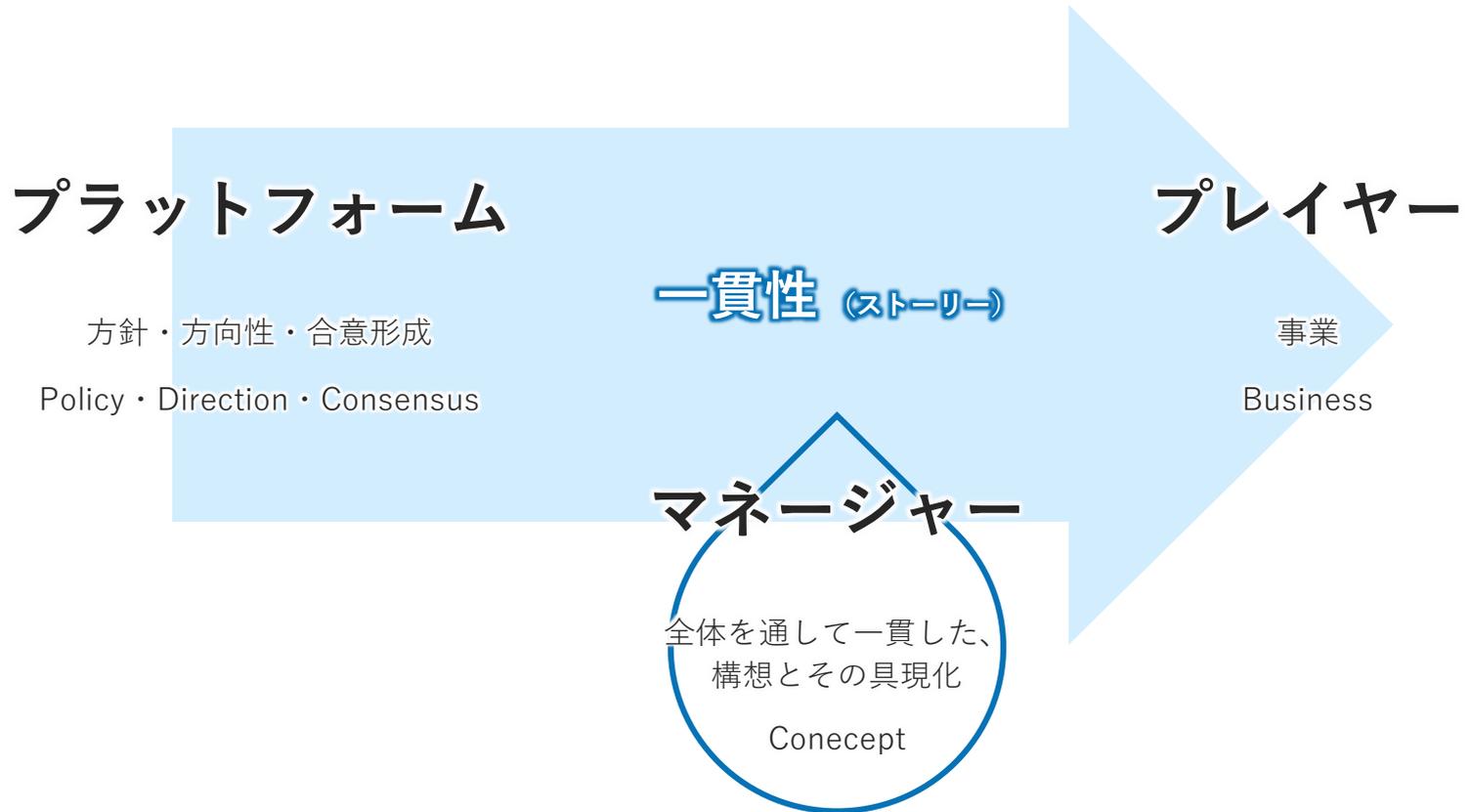


【出典「都市の多様性とイノベーションの創出に関する懇談会」中間とりまとめ(国土交通省)】

【8/8 萩野委員による講演資料より引用】

参考) エリアプラットフォームとは

【官民連携まちづくりとプラットフォームにおける大切なこと】



【8/8 萩野委員による講演資料より引用】